

市民が守った橋

ドイツ・ドレスデン市にはエルベ川に架かる「青い奇跡」と呼ばれるロシュビッツ橋がありまして。1893年に架けられたこの橋は、当初は緑色に塗られていたものが次第に青色に変わったことから、このように呼ばれるようになったといわれます。

橋梁技術者でなくても塗料が変色するのは紫外線の影響で特に珍しくもないと思われる方も多いでしょう。それよりも、この橋がエルベ川にかかるドイツ軍による爆破を免れた唯一の橋であることのほつがある意味奇跡といえます。

橋とともに沈んだ市民もいられません。なぜ爆破されなかったのか理由は明確ではありませんが、爆破計画を聞きつけた市民が爆薬を取り外して阻止したという説があります。それとも、爆破命令の前に、ドイツの敗戦が決まったからかもしれません。



「青い奇跡」ロシュビッツ橋



爆破された漢江人道橋

橋とともに沈んだ市民もいられません。なぜ爆破されなかったのか理由は明確ではありませんが、爆破計画を聞きつけた市民が爆薬を取り外して阻止したという説があります。それとも、爆破命令の前に、ドイツの敗戦が決まったからかもしれません。

朝鮮軍がソウル市に迫ってきた際に悲劇は起こりました。侵攻を恐れた韓国軍は、市内に架かる漢江人道橋の爆破命令を出

系統の乱れから現場に届かず、約4000名の市民が渡っている状況で爆破されました。犠牲者は800人あまりと言われますが、この爆破の責任は現場指揮官一人の処刑にとどまったのでした。



「スパイ橋」グリーツケ橋

橋を経験した戦争 診断士が語る

⑦ 翻弄される市民の橋 冷戦時代の橋

前線の韓国軍は背後の橋が爆破されたことを知ると総崩れとなり、また漢江人道橋に隣接する漢江鉄橋の爆破は不十分であったため、ソウル市は北朝鮮軍の侵攻をうけることになったと言われます。

有名なのが、スパイ行を為していた撃墜されたアメリカ軍偵察機の操縦士と、同じくスパイ行為で逮捕されたKGB大佐との交換(1962年)です。当時は、橋の西側

ですが、韓国軍は橋の前方で未だ戦闘中であつたため爆破指示は取りやめとなりました。しかし、この爆破中止命令は指揮

が、東西冷戦の時代に当時の東ドイツと西ドイツの境界に位置したことからスパイ(工作員)の巻き込まれた橋と言えないでしょうか。

ドイツ・ベルリン市の郊外、ポツダム市との境界ハーフェル川に架かるグリーンニッケ橋はスパイの橋と呼ばれる橋です。この橋は1907年に建設され、爆破を経て1947年再建されたのですが、東西冷戦の時代にオプ・スパイという映画で紹介されています。この橋も、ある意味戦争に

この史実はスピルバーグ監督の映画「ブリッジ・オブ・スパイ」で紹介されています。この橋も、ある意味戦争に